

児童発達支援自己評価表

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 <small>時間内で利用児童数が集中する場合は、活動内容に応じて配置を分けている。</small>
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切であるか	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障書の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども連の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対し、事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的に会議および、職員研修を実施している。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
適切な支援の提供	11 子どもの適応行動の状態を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			15と同様

利用児童の様子や、年齢、課題に応じてプログラムを変更している。その一方で、基の中でテーマを設け集団で取り組む固定プログラムも設定している。

17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○					知面での打ち合わせと、日毎の個別記録用紙を活用し、情報共有を行っている。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	○					
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○					
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○					
21	障害児相談支援事業所のサービスマン担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○					
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○					
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、体育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○					現状、医療的ケアが必要な利用児童がいない。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもを主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○					現状、医療的ケアが必要な利用児童がいない。
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○					不十分なため今後は取り組みたい。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○					不十分なため今後は取り組みたい。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○					
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○					現在、コロナ禍で実施していない。状況が落ち着けば実施したいと考えている。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○					
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状態や課題について共通理解を保持している	○					連絡ノートを作成し活用している。その他電話連絡なども行っている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○					
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○					説明の機会は設けているが、より詳しく丁寧に行っていきたい。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○					

関係機関や保護者との連携

保護者への説明

責 任 等

34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	○			
35	父の会の活動を支援したり、保護者等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援し ている	○			
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に関知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	○			
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	○			インスタグラム、HP掲載、施設便りの発行 等を行っている。
38	個人情報情報の取扱いに十分注意している	○			継続きの保腎庫、関係機関とのやり取り は、名前を伏せている。その他、資料の持 ち出しの禁止を徹底している。
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情 報伝達のための配慮をしている	○			
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	○			28と同様
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	○			
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	○			
43	事前に、服装や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	○			主治医からの指示書や保護者からの聞き 取りを踏まえ、施設内での対応マニュアル を作成している。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指 示書に基づく対応がされている	○			
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	○			
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	○			
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に事 前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達 支援計画に記載している	○			現状、拘束が必要となる児童、もしくは事案 の発生がない為実施していないが、今後発 生することを想定し取り組みたい。

非 常 時 等 の 対 応